

授業に生かすティーム・ティーチング

特別支援学校においては、教員1人が児童生徒を指導するだけでなく複数の教員により指導が展開されることが多い。児童生徒一人一人の目標の達成に向け、一貫性・継続性のある指導・支援を進めていく上で、学級担任だけでなく副担任、学年職員、学部職員等と連携して効果的に指導を行うためには、ティーム・ティーチングをより機能的なものにしていく必要がある。

<ティーム・ティーチングとは>

複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導し評価する方式のことであり、単に同じ場所に複数の教員が配置されているというものではない。ティームの教員一人一人の特性、得意分野を最大限に生かしながら、各自が分担する役割をしっかりと果たすことで成り立つ指導形態である。日頃から教員間の人間関係を良好にしておくことが大切である。

【平成23年度 茨城県学校教育指導方針より】

5 自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進

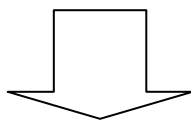
特別支援学校における教育の充実 <具現化のための取組>

○ティーム・ティーチングにおける指導の個別化を図る授業の改善

- ・個別の指導計画に基づく目標や内容の設定及び評価
- ・教材・教具の工夫と効果的な活用
- ・指導者の役割分担を明確にした指導案の工夫及び実践

1 ティーム・ティーチングの課題

- ・教員同士が互いに依存的になり、児童生徒への働きかけが滞ることがある。
- ・サブとなる教員の働きかけが児童生徒の補助や管理だけに終始することがある。
- ・メインとなる教員のみが授業を請け負ってしまうことがある。
- ・複数の教員で授業を計画していても、担当の児童生徒のみに意識が集中してしまい、授業全体への視点が欠けてしまう。
- ・共通理解の困難
(時間がとれない、意志の疎通が困難、遠慮や教員同士の力関係で意見が出せない等)
- ・指導の不統一
(指導法や指導観、教育観の違い、人数の多さ、指導目標の不一致、理解し合えない、不適切なかわり、その場限りの対応等)



TTという授業技術の機能的な欠点ではなく、教員同士の努力によって改善できる課題でもある。

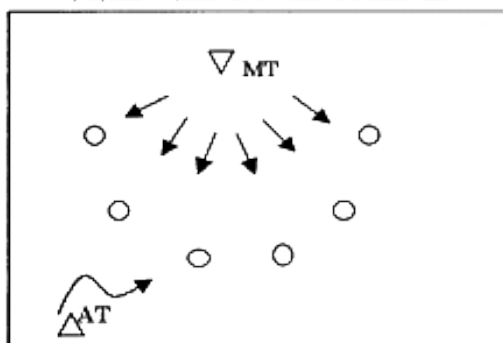
2 ティーム・ティーチングによる授業の特質

- 一斉指導において、配慮や特別な支援が必要とする児童生徒へ個別の対応ができる。
- 学習集団を構成する児童生徒のそれぞれの課題にきめ細かく対応できる。
- 課題ごとのグループを編成して授業を展開できる。
- 教材・教具をそれぞれの教員が分担して準備することができる。
- 教科等、内容によっては、教員の特技を生かしたり、大集団での活気あるダイナミックな授業を行ったりすることができる。
- 多面的な視点での子ども理解が高められる。
- 互いの発想・方法が刺激となり実践が高められる。

☆これらのTTのよさや有効性を意識して、日々の授業を効果的に改善していくことが重要である。

3 ティーム・ティーチングの学習形態 <MT：メインの教員 AT：アシスタントの教員>

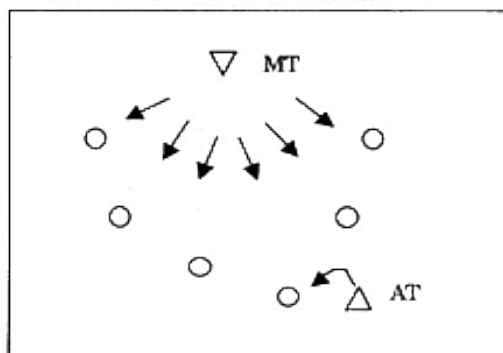
I 単集団－複数教師(全体支援)型



MTが主授業者となり全体をリードする。ATは、集団全体を見ていて、適時、支援が必要な子どもにかかわりを持ち、支援を行う。学習課題の理解を助けたり、活動を補助したりと、課題や場面に応じて個々の子どもへのきめ細かな指導を心掛ける。

学習集団の大きさによって、ATの数も増えることもある。

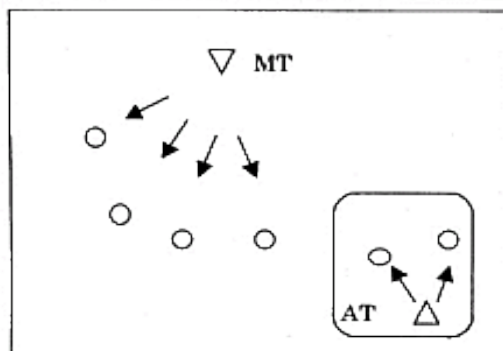
II 単集団－複数教師(個別支援)型



MTが主授業者となり全体をリードする。ATは、指導上の役割分担をし、「担当する子ども」の支援にあたる。

全体の授業のねらいに沿い、担当する子どもを同一の学習活動ができるよう支援する。学習集団が比較的等質で特定の子どもの支援を必要と予想される場合に用いられる形であり、複数のATがそれぞれに担当することや複数の子どもを担当することもある。同一の全体活動の中での支援である。

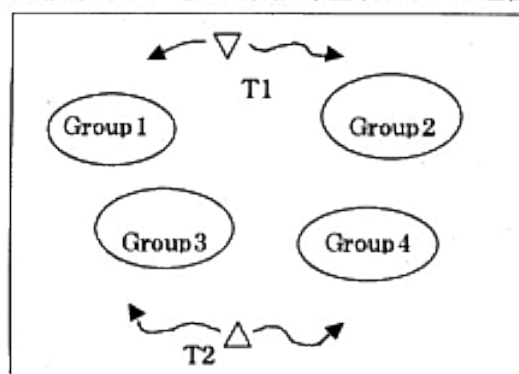
III 単集団－複数教師(小グループ支援)型



MTが主授業者となり全体の授業をリードする。ATは、その学習集団の中で支援が必要な子どもを担当する。

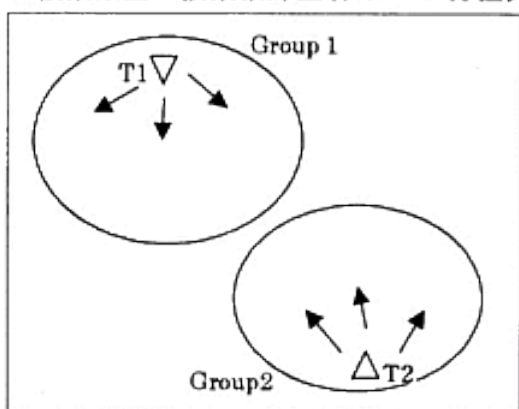
全体の授業のねらいに沿いながら、同一の学習課題ではなく、特別な課題や子どもの実態に応じた課題を設けて学習を進める。基本集団が大人数の時は複数の小グループができることもある。

IV 複数集団－少人数教師型(グループ巡回支援)型



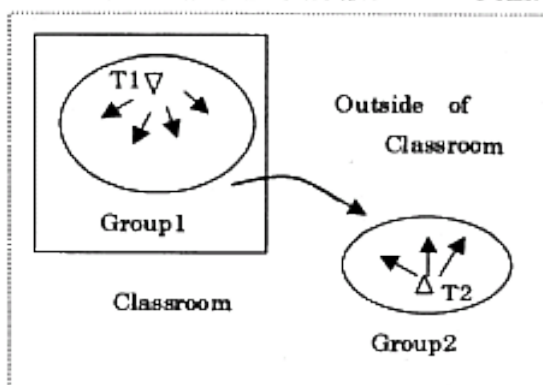
小集団で学習を進め、教師はグループ間を巡回して指導にあたる。同一の課題や異なる課題、等質や異質と、それぞれ活動内容や集団の編成に多様な幅がある。授業の導入部は全体で行い、学習活動をそれぞれのグループごとに行い、まとめは全体で集まるような形で部分的に行われることが多いが、大きな単元のもとでは、その時間を始めから終わりまでグループごとに活動することもある。

V 複数集団－複数教師型(グループ分担支援)型



小集団で学習を進め、教師は担当するグループに張り付く。同一の課題を少人数できめ細かな配慮のもとに学習したり、子どもの様子に応じて設定された異なる活動をしたりする。学習の場は、教室内など共通のスペースであり、教員間で学習の進み具合を調整し合いながら授業を進めることができる。グループの担当は、複数の教師の場合もある。

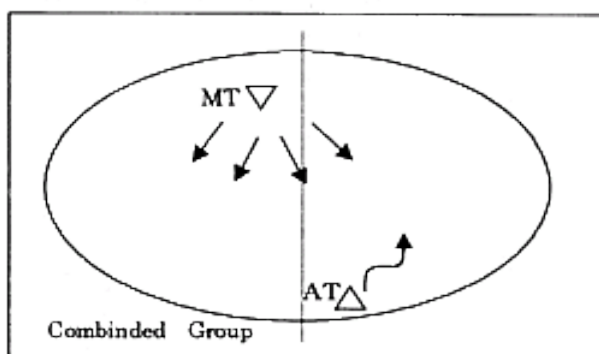
VI 複数集団－複数教師(分散グループ支援)型



集団を活動内容などによって分割し、教師は担当するグループごとに離れた場所で学習を行う。空間的制約を解くことによって学習や活動内容に幅を持たせることができる。

同一の単元の学習の中で一部分として分かれる場合や、空き教室を利用し課題別の学習を進めるなど長期的な計画に基づいて行われる場合もある。グループ間の連絡・調整や計画性が重要である。

VII 集団連結型(合同学習支援)型



ダイナミックな活動をねらい集団を大きく編成して学習する形。

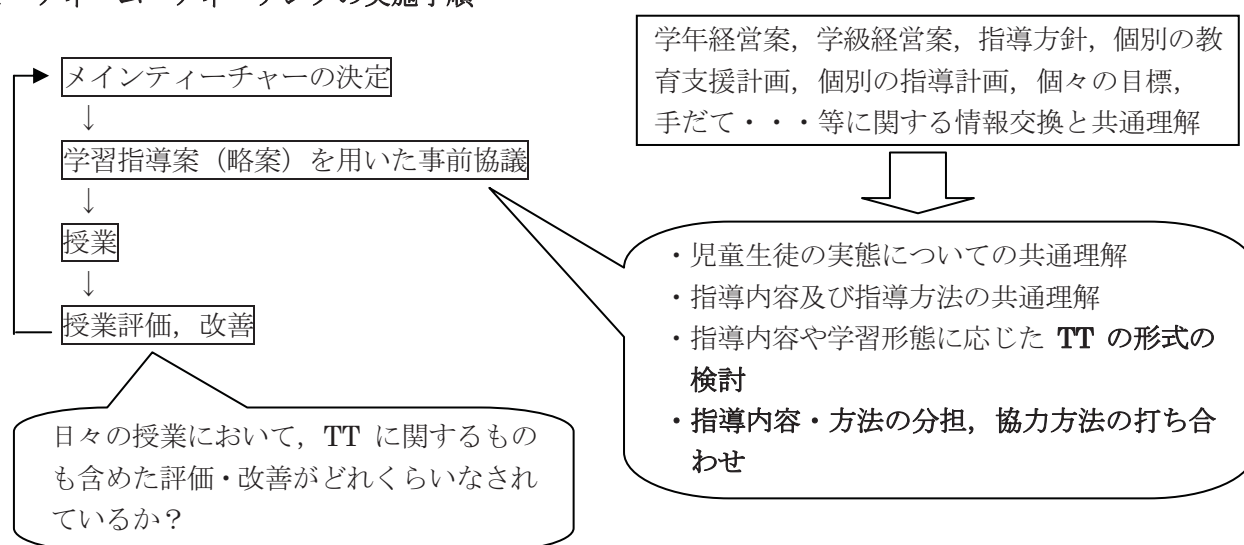
隣接学年と合同授業として、或いは学部全体といった集団で授業を行うことによって、多人数での活気あるダイナミックな活動を行うことができる。体育や音楽の授業を始め、生活単元学習や行事への取り組み等に多く見られる形である。集団が大きくなるため、個々の課題、ねらいを共通理解し、支援の分担等を打ち合わせする必要性がある。

これらは、学習形態の基本的なモデルである。実際の授業では、児童生徒等の目標や支援のニーズ、対応できる教員の数、学習スペースなどによって多様な形態が考えられる。また、授業時間内にこれらの学習形態をいくつか組み合わせていくことも多い。目標や課題に応じて学習形態の組み合わせも様々に工夫することが重要である。

<提案>

- 指導と評価の一体化を考え、今後、上記のモデルに可能な範囲で、児童生徒の指導にはかわらない観察者（評価者）の役割を積極的に設けていくことで、評価が充実し授業改善に繋がる。
- 発達段階に応じて、授業に必要かつ妥当な教員数であるのかを吟味したい。空き時間を設け、別の授業準備にあたる教員をおくことも可能になる。

4 ティーム・ティーチングの実施手順



5 授業実践のための打ち合わせの工夫

(1) 略案を生かす

単元（題材）全体計画（案）と毎授業の指導略案

単元が始まる前に学年会等で単元全体の全体計画について提案し、ねらいや手立て、学習の流れを確認しておくことよい。担当者間でイメージを共有しておくことで、授業が始まってからの打ち合わせ等もスムーズに行うことができる。

授業を行う前には、必ず、誰がどの子どもに、どのような働きかけをするかなど、役割分担をしっかりと確認しておくことが大切であるが、事前の打ち合わせを毎日綿密に行うことは難しい。たとえ話し合いの時間が取れなくても、略案を渡し共有することでT1の授業に対する思いは伝わり、ある程度の共通理解は図れるものである。短時間での打ち合わせも可能とするためにも、ねらいやTTの動きを明確にした略案をいかに書けるかが重要となる。

誰が読んでもわかりやすい略案づくりを心がけると、児童生徒のこの活動だけは見落とさないでほしいという思いが伝わる。これは、授業を焦点化し、本時の目標や学習内

容を個別化することにもつながり、授業を進める上での自分にとっても、さらにわかりやすい指導案になる。

略案により、授業ごとの評価を積み重ねていくことになり、これが単元（題材）全体の総括的な評価にもつながり、終了時の個人目標の達成状況や支援の在り方をまとめることになる。また、次に取り組むべき課題等もはっきりしてくる。

略案を書くことで、指導案の書き方に慣れるだけでなく、児童生徒の見方や授業の作り方も上達することになる。

略案に決まった形式はないが、その内容は、基本的には細案の「本時の指導」にあたる部分を中心となる。使用目的に応じて重点的に詳しく書く部分が出てくる場合もある。ポイントを押さえておけば、書きやすい形でよい。＜略案の例：別紙①参照＞

どんな略案を作って、どんな打ち合わせをするかがポイント

（２）児童生徒の目標等の共有

打ち合わせを進めていく上で、「個別の指導計画」から児童生徒一人一人の個人目標を確認しておくことが必要である。授業前に「個別の指導計画」から本時の授業にかかわる児童生徒の個人目標を一覧にして相互に確認したり、その指導の手だてについても教員間で共有したりするとよい。

＜参考＞ 第52回全国肢体不自由教育研究協議会（2006）提案資料

「ティーム・ティーチングにおける評価と授業改善の取り組み」発表骨子より

TTにおける問題点として、構成メンバーによる評価のズレが「連携の不備」や「非効率的な話し合い」「指導観の違い」等に影響している可能性が報告された。そのため、児童生徒の同じ行動でも解釈が多様化したり、評価対象の特定が困難であったりといった課題があることが示唆された。近年、評価を「指導事後の成果確認」だけでなく、「目標と指導と評価の一体化」という教育実践プロセスの一つの機能としてとらえるのが一般的である。そこで、評価のズレは目標の捉え方のズレから始まるのではないかという仮説設定を行い、研究を進めた。

教育目標に関する分析の結果、教師を主語とした指導目標と児童生徒を主語とした教育目標が混在していた。また、具体性に欠けることばが1つ以上使用されると、読み手にとって解釈の違いが生じることがわかった。そこで、目標の主語を児童生徒に限定し、視認できる行動の目標を設定したところ、評価に関する客観性が確保され、授業改善につながり、TTをより効果的に進めることができるようになった。

（３）指導内容・方法の分担，協力方法の打ち合わせ

＜静岡県立御殿場特別支援学校における実践研究（2008）＞

「特殊教育諸学校におけるティーム・ティーチングの指導・支援の技術」茨城県教育研修センター（2000）＜別紙②参照＞をもとに，授業の準備，授業時間内，授業時間後の３つの場面に分け，打ち合わせや評価に活用するために改変したものが，下の表１「ティーム・ティーチングでの指導・支援の内容」である。

ティーム内での話し合いの視点の明確化，互いの意見の共通理解，ティーム内での役割の意識化などについて，表１を活用した打ち合わせ，評価等の実践を行い，効果をあげた。

表１「ティーム・ティーチングでの指導・支援の内容」

場面	項目	内 容	
授業の準備	指導案の作成	個々の児童生徒の実態や課題（個別の指導計画）を加味した授業計画	A 1
		単元や題材，教材・教具の勝ちや意義を加味した授業計画	A 2
		アイデアを出し合いながら，共同での授業計画の練り合い	A 3
		個々の教師の個性・特性を生かした担当や役割分担	A 4
	授業確認	指導案に基づいて，授業中の児童生徒の目標や反応に対する共通の視点の確認	A 5
		指導案に基づいて，授業中の教師の動きなどの確認	A 6
	健康安全	発作やけがへの対応，自己の防止の確認と準備	A 7
	教材作成	共同したり分担したりして行う教材・教具の作成	A 8
授業時間内	場の構成	教材・教具の出し入れ（提示）や音響・照明などによる場の工夫	B 1
	意欲誘導	雰囲気の高まりなどの働きかけによる学習活動への意欲づけ	B 2
	指導分担	個人やグループ別指導場面での役割分担	B 3
	理解援助	発達特性を踏まえた上での課題への理解を支援するための補足や手本の提示，手だて	B 4
	活動補助	発達特性や授業目標を踏まえた上での学習の中で困難な活動への支援	B 5
	代弁	児童生徒の意思表示の代弁	B 6
	賞賛	児童生徒の表れを見取っての賞賛	B 7
	臨時対応	学習時の想定外の行為への対応	B 8
	健康安全	発作やけがへの対応，事故の防止	B 9
	評価	評価対象者を分担し細かく見取り，多面的な視点からの評価	B 10
授業時間後	授業評価	話し合いによる授業全体への客観的評価	C 1
		多面的な視点から，児童生徒一人一人についての情報交換と評価	C 2
		授業計画の見直しなどの協力	C 3
	授業記録	授業全体や個々の児童生徒についての記録	C 4

6 授業評価のための工夫（例）

（１）５の表１「ティーム・ティーチングでの指導・支援の内容」を活用した授業評価

（２）「気付き表」の作成と活用による授業改善

＜授業評価の観点＞

観 点	評 価 軸
単 元 題 材	・ 単元、題材の目標や学習内容は児童生徒にとって適切であったか。 ・ 他教科、領域との関連はどうか。 など
支 援	・ 教師の働き掛けは適切であったか。 ・ 教材・教具等は適切であったか。 など
その他	・ 児童生徒の活動の様子はどうかであったか。 など

毎日の授業を振り返り、次の授業改善につなげるために、左のような授業評価の観点を設定し、「気付き表」として教員がそれぞれ授業後に記入し、集約する。

そして、教員の気付きを基に授業者は次時の授業改善に役立てていく。

気付き表 教科名 保健体育 題材「ポートボール」 高等部 1年	
10月〇日	本時 1 / 8
気付き表の記入方法 気付き表の記入方法 気付き表の記入方法	
1 ルール、チーム編成の説明	・ 事前にファールになるプレイについて、具体的にモデルを示して説明していたことはよかった。ファールになるプレイをしないように注意している生徒の姿が見られた。 支援(O) ・ 最初にゴール担当の生徒に対して、ボールの投げ方を実演していたことがよかった。そのことでゲームでは、生徒が投げる力の加減や投げ方を考えてプレイする姿が見られた。 支援(O)
2 試行的なゲーム	・ ルールの正確な理解が困難な生徒に対しては、丁寧にルールの理解を促す手だてが必要である。 支援(Δ) ・ 同じ生徒ばかりにボールが集中していたので、ゲームの中でできるだけ多くの生徒にボールとかかわることができるような手だてが必要である。(特別ルールを設定をしようか) 支援(Δ) ・ ゴール担当の生徒も積極的にゲームに参加でき、全体的にも生徒の笑顔が多く見られた。 その他 生徒の姿(O)
↓	
次時の授業に向けて (主な改善点)	・ ルールの理解が必要な生徒に対しては、STが中心になり、場面に応じて個別的に生徒にかかわるようにする。 ・ 1チームの人数を少なくして、短い時間で交替しながら数多くゲームをするようにする。 ・ ゲームに主体的に参加できるようにするために、生徒自身で作戦を考えさせる時間を確保する。 ・ 反則のプレイについては次時も具体的に示し、危険なプレイがないように配慮したい。

(3) ビデオによる授業分析

1 時間の授業をすべて振り返ることは時間的にも困難であるため、TTにおける教員の動きやかかわり方、児童生徒の反応等に絞って、ポイントを決めて早送りで見たり、一部分を抽出して見たりと工夫するとよい。客観的に把握し分析的に捉えることができ、授業改善や教員の力量の向上につながる。

7 その他

- 日頃からの情報交換（立ち話も含め）
- 学年主任や授業主担当の教員への働きかけ
- みんなで授業を作っていくという雰囲気作り
- 授業を流すための役割分担だけでなく、目標や支援の手立て、かかわり方等の共通理解
- 日々の授業と個別の指導計画との関連を常に意識しておくこと
- 講師や小中学校からの交流等、教員の入れ替わりが激しいので、TTに関する研修を校内研修や学部会で設けていくことも有効

<引用・参考文献>

- 研究報告書第 41 号 特殊教育に関する研究
「特殊教育諸学校におけるティーム・ティーチングの在り方」平成 12 年度
茨城県教育研修センター
- 「特別支援学校 教師のためのサポートブックⅡ」平成 22 年度
宮城県特別支援教育センター
- 「特別支援学校（知的障害）におけるティーム・ティーチングによる授業改善の試み」
長谷川裕己，渡辺明広，平成 20 年度，静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要

<略案例>

<生活単元学習 「野菜を育てよう」の略案例>

小単元名	収穫祭、作った野菜で芋煮なべをつくろう	日	単元の目標との関連性が分かるように書こう
目 標	① 手順よく材料を準備し、芋煮なべをつくる ② これまでの栽培活動を思い出しながら楽しく会食し、収穫した喜びを味わう		
学 習 活 動		指 導 上 の 留 意 点	
1	はじめのあいさつをする ・あいさつの号令をかける (A 児)	・A 児に号令を大きな声でかけるようにさせる (T 1) ・T 1 に注目させ、元気よくあいさつさせる (T 2)	
2	芋煮なべをつくることを知る ・作った野菜も材料になることを知る	・作った野菜の絵カードを順番に黒板に貼り、思い出しやすいようにする (T 1)	
3	役割分担をする ・役割分担	・芋煮なべ作りの手順表を黒板に貼る (T 2) 役割分担表を黒板に貼る (T 2)	
4	道具の準備 ・包丁を準備する (A 児、B 児) ・まな板を準備する (D 児) ・フードカッターを準備する (C 児)	・包丁、まな板の場所を示し、準備の声掛けをする (T 1) ・C 児に具体物の写真を提示し、フードカッターの準備を一人でできるようにする (T 2)	
5	調理する ① 野菜を洗 ② 皮をむく ・包丁で皮を ・フードカッターで切る (C 児) ③ 材料を煮る ・煮ている間に道具を片付ける ④ 味付けをする (C 児)	C 児が野菜を洗いやすくするために、野菜の持ち手を支えてやる (T 2) ・C 児とともに皮をむいた材料を一カ所に集め、フードカッターに材料を入れやすくする (T 2) ・A 児、D 児に時々おたまでかきよう声がける (T 1) ・包丁の取り扱いには十分	具体的に指導や支援の内容も書いておこう 中心となる学習活動では、段階などをより詳しく書いておこう 教師の役割分担の内容を分かりやすく書いておこう
6	会食する ・いただきますの号令をかける (C 児) ・ごちそうさまの号令をかける (D 児)	・C 児が味噌で味付けする	
7	片付けを ・自分の	・のことを思い出させ楽しい会話になるようにする (T 1, T 2)	
8	おわりの ・あいさ	・食器を洗いやすいように持ち手を支えてやる (T 2) ・ははっきりと号令をかけるようにさせる (T 1)	
備 考	○ T 2 は C 児を担当し、一人でできることが増えるような支援に心掛ける ○ 刃物によるけがや調理中のやけど等、安全面には十分な注意を払う		

「特殊教育諸学校におけるティーム・ティーチングの在り方」(2000)

茨城県教育研修センター 研究報告書第 41 号より

特別支援学校におけるティーム・ティーチングの指導・支援の技術・スキル (事例)

技術	スキル	具体的な事例
		MT (メインティーチャー) AT (アシスタントティーチャー)
場の構成	機材の操作	・パソコンの操作の補助 ・オーディオ・ビデオ機器の操作
	教材提示	・学習の流れに沿ったスムーズな視覚教材等の提示 ・急に必要になった教材の準備・提示
	教材の設置	・体育や図工等の時間に導入の説明と並行して、教材・教具を準備する。
	効果づくり	・音響機器やピアノによる雰囲気づくりをする。 ・照明のコントロール
意欲誘導	活動の先導	・歌を歌えるように先に歌う。 ・活動課題を例示する目的で先にやる。(サーキットトレーニング) ・答えに戸惑う子どもへ例示する意図で発言する。
	雰囲気の盛り上げ	・生徒役になり、間違っただけで答えたりしながら活発な意見交換を促す。 ・授業に消極的になりがちな生徒に付き添い、一緒に活動することで心を解きほぐす。 ・子どものようにリアクションをとって盛り上げる。 ・読み聞かせの時など合いの手を入れる。
	発言を促す	・ちょっとしたきっかけがあれば発言・発表ができる子どもに言葉かけをする。 ・意見を引き出すようなことばかけとして、「一緒に考えてみよう」等の発言をする。
	活動を促す	・「やってみよう」「面白そう」などの言葉かけをする。 ・活動の流れにのれない子どもに、興味を引き出したり、一緒に参加する働きかけをする。
	課題への意識づけ	・活動から気持ちが離れた子どもに意欲を高める言葉かけをする。 ・教材提示に時間がかかるなど、期待感を膨らませるような発言をする。
	学習への意欲づけ	・離席した子どもを授業に向くよう対応する。 ・情緒的に不安定な子どもへ情緒の安定を図り、課題へ向かわせようとスキンシップや言葉かけによって、子どもの気持ちに寄り添って支援する。 ・しかられて落ち込んでる子へ意欲付けを図る。 ・教師との関係がこじれ、活動が止まったときに、対応者が代わることによって子どもがスムーズに活動に参加できるようにする。 ・学習の導入で、寸劇など行い興味・関心を引き出す。
理解援助	補足説明	・授業で、MTの説明では、その子にとって分かりづらかった時に、ATが補足して説明をすることで、子どもが活動内容を理解できるようにする。 ・子どもの反応が今ひとつの時、子どもの代弁者としてMTの補足説明を求める質問などする。 ・MTの難しいことばを分かりやすく説明する。 ・MTにかわって、全体へ美術や体育などの専門分野の補足説明をする。 ・発問の意味が分からない子どもに、分かりやすく伝える。 ・MTの発言を繰り返し理解の徹底を図る。
	演示	・MTが説明をし、ATが分かりやすく手本の実技をする。 ・良い例、悪い例を演じて見せ、子ども達に具体的に考えさせる場面を作る。 ・手本となるよう歌を歌ったり、楽器を演奏したりする。 ・教師と子ども役を演じ、子どもの発言、発表の仕方を分かりやすく教える。 ・挨拶などソーシャルスキルの手本を例示する。
	ヒント	・MTの「海について知ってること？」に対し、他の教員が波の動作をしたりザザーと音を発して「波」ということばを引きだす支援をする。 ・問いかけに対して子どもの反応があまりないとき、ATがヒントとして一つの答えを提示する。 ・誤答を例示することによって、子どもへゆさぶりをかけ理解を深める。

	視覚化	・MTが説明したことを板書し、視覚的な補助をする。 ・大きな集団で話を聞くと、話のキーワードを文字で提示し理解を助ける。 ・絵を描くなど分かりやすい方法で支援する。 ・必要に応じATが絵・写真カードを提示して理解を助ける。
活動の補助	発言（意思表示）のフォロー	・うまく気持ちを表現できない子どもの気持ちを、「たのしかったよー。」等と代弁する。 ・重度の子どもの僅かな動きから意思を読みとりMTに返す。 ・会話が困難な子に代わって会話や返事をする。 ・表現が苦手な子に代わって発表する。
	活動の補助	・走るコースがわからないとき伴走する。 ・一緒に鬼ごっこをして逃げることを教える。 ・トランプを持ってあげゲームを一緒にやる。 ・子どもが少ないとできない野球やバレーの時にゲームに入る。楽器の演奏で手を添えて一緒にやる。 ・大玉乗りやトランポリン、シーツのブランコ等人数が必要となる活動を補助する。 ・プールでの活動や体育での活動を一緒にやる。
	技能面の補助	・ミシンの操作、はさみの操作の時に補助する。 ・調理時のガス器具の操作や包丁の介助をする。 ・マヒのある子どものノートの固定やページめくりを介助する。 ・筆記の際に手を添えて介助する。 ・衣服の着脱の際、手先が動かない子どものボタンかけなどを介助する。
	姿勢の保持・介助	・学習時のポジショニング作りや粗大運動などの一人では難しい活動の補助をする。 ・車椅子の乗り降りの補助をする。 ・体の向き、教材との距離などの介助する。
指導の分担	グループの指導	・目標に合わせたグループをつくり指導を担当する。 ・実態に合わせ、課題を変えて数人の指導を分担する。 ・活動の中で班を編制し指導を担当する。
	個別の指導	・教科指導で、子どもが課題につまづいた時それぞれの子どもに適切な支援に入る。 ・集団内の個人差（個別目標）に合わせて指導にあたる。 ・一斉指導ではついていけない子どもに付いて支援する。
	違う課題の指導	・活動にのれない子に、その子の興味に合わせて個別に指導する。 ・多動な子等集団に適応できず同じ活動ができない子どもについて、場所を変えたりしながら指導にあたる。 ・体調のため活動が制限されるなど一斉活動ができない子どもの課題を容易にして共に学習できるよう対応する。
	場面の担当	・歌、合奏、ダンス等の分野、ボール、器械体操等の分野、木工、農作業等の分野と教師の得意分野の場面を分担する。 ・学習の途中でATが全体指導を引き受け、MTがグループや個別の指導を行う。 ・しかり役、なだめ役を分担する。
評価・賞賛	評価	・音楽や体育など、大集団での活動の評価を分担し、細かく多面的に見る。 ・授業中、ほとんど発言しなかった子どもが、内容をどれだけ把握しているかATが個別に対応して理解度をチェックする。
	賞賛	・MTの賞賛を受け、より賞賛が効果的になるようATが拍手や言葉かけをする。 ・ATが身近な子どもに細かな励ましや賞賛をする。
	公平性	・賞賛・叱責がMTの主観的になるのを防ぐ。 ・MTが気づけなかった発言や行動を適性に評価し取り上げる。
	即時性	・一人ずつ細かなワークノートの指導やその場での採点などをする。 ・注意すべき子どもを取り出してその場でその時に指導する。

臨時的対応	パニックへの対応	・パニックを起こした子どもに対応し、他傷や自傷行為を防ぐ。 ・パニックを起こした子どもを室外へ連れ出す等混乱を避ける。
	情緒の安定	・情緒が不安定になった子どもを落ち着くよう指導のため席から離したり、教室を離れる。 ・授業が始まっている教室に入れない子どもへ対応する。
	集団逸脱への対応	・予想しなかった子どもが突然、集団行動から逸脱した時に臨機応変な対応をする。 ・活動の場から離れてしまった子どもへ対応する。 ・移動中に座り込んで動かなくなった子どもに対応する。
	治療等	・怪我人や急病者を保健室へ引率する。 ・具合が悪くなった子どもに対応する。(看護、家庭との連絡他) ・発作を起こした子どもへの対応(看護、養護教諭への連絡他)
	排泄指導	・トイレへの引率、介助。 ・トイレの失敗の処理。
健康・安全	健康面の配慮	・体調がいつもと違うとき、個別に対応する。 ・体調を常に観察し、必要に応じて対応にあたる。 ・気温の変化などに注意し、体温調節を補助する。 ・照明の調節など学習環境の調節をする。
	事故の防止	・サーキットトレーニングの時など要所に待機して安全に気を配る。 ・移動時の子どもの掌握など、危険の回避を図る。 ・理科の実験、調理、作業など危険を伴うとき事故防止に配慮したきめの細かい指導を行う。 ・日常的な活動の中でも電気製品を使うときは感電事故などに気配りをする。
MTのサポート	MTのアシスト	・少人数や重度のため発言が少ない時、子ども役となって授業を構成する。 ・学習態度作りのための見本を示したり、MTに代わって授業の流れを止めずに注意したりする。 ・子どもが困難な部分、原因をMTに伝え、授業の流れを修正する。 ・MTの発言に頷いたり、返事をして授業の流れを助けたりする。 ・子どもの予想もしない発言に戸惑ったりするMTをカバーして代わりに答えたりする。 ・複数の子どもからの問いかけに分担して答える。
事前事後	共通理解	・子どもの実態、授業のねらい等を共通理解する。 ・指導の分担や授業の流れを確認する。 ・予想されるトラブルへの対応法を検討する。
	授業案づくり	・いろいろなアイディアを出し合う。 ・展開についていろいろな案を出し合い内容を深める。 ・指導の計画を協力して作る。
	教材準備	・協力し合って大がかりな教材を準備する。 ・分担することによって幅広い教材を準備する。
	授業後の整理	・教材等の片づけを分担する。 ・授業や子どもの様子などの記録を分担する。
その他	授業の評価(教師)	・トラブルへの対応策などアドバイスを交換したり、相談し合う。 ・指導の方法を学び合う。 ・授業の反省を話し合いによって客観的に行う。
	授業の評価(子ども)	・観察した様子、評価等の情報を交換する。 ・子どもの見方等いろいろな考えを出し合って実態把握を深める。
	学級経営の分担	・保護者への対応を分担する。 ・MTと連携をとりながら多角的に保護者へアドバイスをする。 ・生徒の悩みを聞くなど生徒指導上の仕事を分担する。 ・教師間で、悩みに対して助言、アドバイスをする。

※上記の具体的事例はアンケートを基に具体的な内容を整理したものである。